



第2回・咲声café

6月22日(土)

午後2時開演

会場：3階 多目的ホール 入場料4,000円※

出演：豊永利行(声優)・矢野奨吾(声優)

問合せ先：咲声café (<http://sakikoe.jimdo.com>)

■プロの声優の演技とトークを楽しめる朗読会。

■朗読の演目は咲声caféオリジナルシナリオになります。

※チケット事前購入制となります。上記URLよりお申し込みいただくか、平惣徳島店・川内店でお買い求めください。北島町立図書館では扱っておりません。ご注意ください。

第25回・徳島12人のフルーティストによる音の贈り物

6月23日(日)

午後1時30分開演

会場：3階 多目的ホール 入場料1,000円

チケット取扱：北島町立図書館・喫茶みき・黒崎楽器店・フルートの店やまさん

演目：「子供の領分」(ドビュッシー)、「ツイゴイネルワイゼン」(サラサーテ) など

主催：フルートを吹く会

(代表：岡本 ☎080-5664-8435)

後援：北島町教育委員会

阿波・北島町写真展

6月28日(金)～7月2日(火)

午前10時～午後6時

会場：2階 ギャラリースペース 入場無料

主催：北島町商工会(☎088-698-2275)

人形劇団べんべろべえ公演

7月4日(木) 午前11時～

会場：2階 ハイビジョンシアター 入場無料

対象：就学前の子どもと保護者。

※赤ちゃんも大歓迎※

上演：・おさるのラッキーぼうや・オバケといっしょ

主催：人形劇団べんべろべえ

(代表：兵頭 ☎088-698-6652)

■北島町のアマチュア人形劇団によるオリジナル人形劇です。



徳島クリエイターズマーケット

7月6日(土)・7日(日)

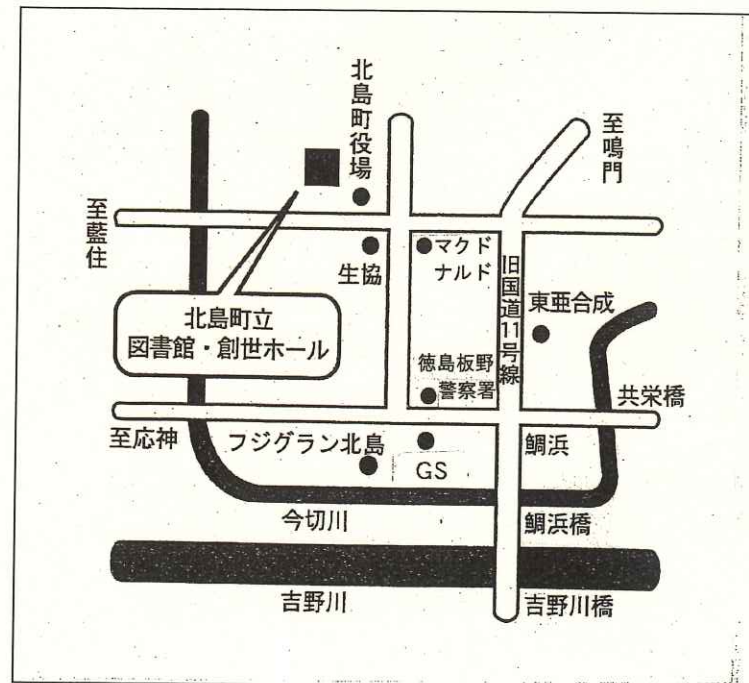
午前10時～午後5時(最終日は午後4時まで)

会場：2階 ギャラリースペース 入場無料

主催：徳島クリエイターズマーケット事務局

(代表：川久保 ☎080-3162-2234)

■全国津々浦々から凄腕の「モノづくり人」が集う、徳島県内最大級のハンドメイドマーケット、令和に改元してから初の開催になります。■発起人は川久保貴美子さん。脱力系癒しキャラ「ししゃもねこ」で知られる、本町在住の造形作家さんです。■自分だけのオリジナルハンドメイドグッズが作れる体験型ワークショップも充実！お気に入りの一品が見つかるかも！皆様、ぜひご注目ください。



追悼★遠藤ミチロウさん

北島町立図書館等協議会委員長、創世ホール・サポーター★小西昌幸

■ロック歌手の遠藤ミチロウさんが、2019年4月25日にお亡くなりになりました。享年68。北島町立図書館・創世ホールは、遠藤ミチロウさんの催しをこれまで10回開いてきました。大変縁のある方です。今号は、その追悼文を掲載します。また「文化ジャーナル」では2015年8月号で「遠藤ミチロウと徳島県北島町」という文章で創世ホール・ライブの足跡を綴っています。町のHPで読めますのでぜひ併読を。

■5月1日午前9時過ぎ、近所の複合映画館で「アベンジャーズ/エンドゲーム」のチケット購入のために列に並んでいたら、徳島新聞松茂支局の記者の方から電話があり、遠藤ミチロウさんがお亡くなりになったと告げられた。とりあえず午後3時に取材を受ける約束をして、気もそぞろに映画を見終えた。

■映画鑑賞中には徳島新聞社の沢口さんからの留守番電話も入っていた。沢口さんは、本県の新聞記者の中で最も多くライブ会場に足を運び、一番多く遠藤さんと接した記者だろう。映画館のトイレで、沢口さんに電話をかけた後、千葉の自主レーベル・いぬん堂の石戸圭一さんにも連絡した。石戸さんは昨日ミチロウさんのツイッターで訃報を知ったということだった。彼は、闘病中の遠藤さんを励ますために、ザ・スターリンの最初期音源集「スターリニズム・ネイキッド」を4月20日に発売している。「石戸さん、あなたはよいことをした。間に合ってよかったと思います」と言いながら涙が出てしまい、困惑した。

■映画館から自宅に直行し、いくつか資料や写真を引っ張り出して、松茂支局の松村記者の取材を受けた。翌日のミチロウさんの訃報欄に関連記事が掲載され、私のコメントが載った。

■それにしても、本当にまいった。長谷邦夫さん、小池一夫さんと訃報が続く、とうとう遠藤ミチロウさんだ。遠藤さんは創世ホールで10回ライブをしているので、プロ歌手としては最多出演者と言ってよい。以前は、徳島入りのたびに小西宅にお泊りいただいていた。その際お風呂は徳島市川内町のあいあい温泉だった。私の息子二人が小学生のころからミチロウさんに接していただいている。家にいる1歳半の孫娘・詩緒里ちゃんもお見せして抱き上げていただきたかった。訃報は、痛恨としか言いようがない。

■2017年12月16日の北島町公演【フクシマ・トクシマ連帯映画祭●遠藤ミチロウ監督主演作品「SHIDAMYOJIN (シダミョウジン/羊歯明神) 最終版」上映会+監督あいさつ+ライブ】の時、遠藤ミチロウさんは徳島市のビジネスホテルで2泊された。15日の夜、食事をしながら翌日の出迎いの時間などの協議をしているときに、「明日のライブまでにお松大権現というところに行きたいのですが、簡単に出かけられることはできますか」という相談を受けた。お松大権現は徳島県阿南市にある神社で、1万体の招き猫が奉納されているいわゆる猫神様である。猫が大好きな遠藤さんは猫神様の神社に参拝したいとお考えになったのだ。少し調べてみたが、お松大権現には石段もあるようだった。遠藤さんは膠原病で、今はお体が万全ではないから、本当は誰かが車でご案内するのがよかったのだが、私はその時仕事で身動きが取れなかったの、それはかなわなかった。結局、遠藤さんはライブの日は朝からホテルで体を休めておられたようだ。お松大権現への参拝ができなかったことは互いに心残りだったので、次回徳島入りの折にはぜひ行きましょうと約束したのだった。それは果たせないままとなった。

■90年代半ばからソロで活動されるようになり、徳島でのライブは大体私

がお世話をさせていただいた。アンカーベイというジャズの店(移転前の場所)で60人以上集めたのが、私に関わった最初のミチロウ・イベントで、ある時期までは徳島市内のライブハウスを会場にすることが多かったが、ギャラを少しでも多くお渡しするにはどうするべきかと思案して、結局、職場の会場(北島町立図書館・創世ホール2階ハイビジョン・シアター)でするようになったのだった。

■様々な場所にお連れした。阿波踊り会館では一通りの出し物の後、観光客がステージに上がって踊りに参加できるコーナーがあるのだが、遠藤さんはそこで踊った。楽しそうだった。その写真はどこかにあると思う。鳴門市のドイツ館や大麻比古神社にも行った。遠藤さんはクスノキが好きで、大麻比古神社の大きなクスノキを見て喜んでた。写真も撮っていた。映画「バルトの楽園(がくえん)」のロケ地跡が観光施設になっていたころ、2人で出かけて記念写真も撮った。ライブの宣伝のために、エフエムびざんに出演していただき、生(なま)で歌ってもらったこともあった。中禮美德さんが在籍していた頃だ(2000年代初め頃だと思う)。

■遠藤さんのライブは、12月が多く、それは定期的に創世ホール講演会の前だったので、その宣伝のために催しのチラシを持っていただき、小西と並んで記念撮影ということもよくやった。手元には、東雅夫さん(2012年2月「遠野物語と怪談の時代」)や根本圭助さん(2013年2月「異能の画家・小松崎茂」)やサエキけんぞうさん(2018年2月「日本にロックができるまで」)の講演会の時のものがある。遠藤さんはいつも快くポーズをとって撮影に応じてくださった。東雅夫さんは、確かブログでミチロウさんに感謝の言葉を述べていたと思う。最後の写真は2017年12月16日のものだ。それを掲げておこうと思う。ミチロウさんの左隣の女性は、元ラモーンズ・ファンクラブの幹部・館山百合子さん(青森出身、現徳島在住)だ。

■昨年6月頃だったと思うのだが、遠藤ミチロウさんのお申し出により、2018年11月8日開催という日程でライブを行なうことを決定し、準備を進めた。会場を押さえ、時期を見てチラシ、ポスター、チケットを作り、納品に出かけた。それは8月末だったと思う。その日の納品は私の都合で、喫茶アーロンズと中古レコード店・ジャクソンのみで終わった。

■遠藤ミチロウさんの徳島ライブはずっと町内の友人・下野和之さん(大手製薬会社勤務)と組んでやってきた。それで、下野さんにはチケット納品に回り始めていることをお伝えした。その翌日だったか、下野さんから連絡があった。遠藤ミチロウさんのホームページに、急病のため9月と10月のライブが中止になった旨のお知らせが掲載されている。もしかしたら11月も危ないのではないかと、という。

■それで私は東京のマネージャーの伊東さんに電話をかけた。ズバリお聞きするが、11月は大丈夫だと思いますか、という質問に伊東さんは、正直難しいのではないかと考えている、という答えだった。マネージャーとして、ミチロウさんのお気持ちを最優先に考えていること、しかしご体調のこともあり迷っているということが、痛いほど伝わった。ミチロウさんご自身としては、誠実なお人柄から無理をしても11月から復帰したいと考えるのではないかと、何年か前に膠原病を原因とする心膜炎で倒れた時も、復活ライブの後再び体調を崩して休養に入られたことがあったのだ。だから、ここは治療に専念して欲しい、11月8日の分は1年後でも1年半後でもよいから延期にしましょう、そして元気なお姿で徳島に来てくださいますか。そのように徳島の小西が強く言っていたとミチロウさんにお伝えいただけませんか。そんな風に伝言を頼んだ。

■9月に入ってミチロウさんから小西の携帯電話にご連絡をいただいた。

「もしもーし、ミチロウです」といつもの独特のややかすれた声だった。遠藤「今回はすみません」、小西「遠藤さん、ここは気になさらず、どうか治療に専念してください。そして北島町で復活ライブをやりましょう。その時、オフの時間にお松大権現に行きましょう」、「ありがとうございます」。これがミチロウさんと交わした最後の会話になった。

■東日本大震災を契機に、遠藤さんは、郷里・福島としっかり向き合うようになり、大友良英(音楽家)、坂本龍一(ピアニスト、作曲家)、和合亮一(詩人)といった人たちと《プロジェクト FUKUSHIMA!》を作り1万人規模の大きなライブを仕掛ける。このときもあくまで地域ときちんと向き合い、放射線衛生学の木村真三博士の協力を得て、野外会場の残留放射線を測定するなどして対策を練っている。

■膠原病を発症し、病氣と向き合い『膠原病院』という書物を刊行し(2015年4月29日)、同時発売のアルバム「FUKUSHIMA」で被災地福島と向き合ったアルバムを世に問うた。アルバム収録の「NAMIE(浪江)」は、住民には何の落ち度もないのに、避難を余儀なくされて苦痛を強いられている浪江町の無残で悲痛な状況を描いていた。日本の矛盾をえぐった歌だった。遠藤さんは、浪江町で飼われていた豚が野生化し猪と交わり猪豚がそこら走り回っていると言って嘆いていた。

■このアルバムにも収録されているのだが、「新・新相馬盆唄」「志田名音頭ドドスコ」は、パンク歌手・遠藤ミチロウが自国の伝統音楽(民謡、盆唄=ジャパニース・トラディショナル音楽)を全く違和感なく歌いきっていた。一つの到達点といってよかった。それは映画「SHIDAMYOJIN 羊歯明神」とアルバム「羊歯明神」でさらに進化していた。感服した。

■映画で克明に描かれているのだが、放射能のホットスポットとなってそこに取り残された志田名地区の老人達のために遠藤ミチロウは櫓(やぐら)を組んで、浴衣姿で盆踊りやパンク民謡を奏でるのだ。そしてその横には民謡界の大御所・伊藤多喜雄氏の姿がある。伊藤氏は嬉々として立ち、我らがミチロウと共に朗々と響き渡る歌声を披露する。その櫓の周囲を高齢者の村人(爺さんや婆さん)が実に楽しそうに輪になって踊るのだ。もちろん、ミチロウ・ファンの若者の姿も交じっている。実に見事であった。

■猫が好きだった遠藤ミチロウさんは、映画「SHIDAMYOJIN 羊歯明神」のパンフレットに猫たちのイラストを使った。そこには、猫たちが演奏し、楽しそうに踊る祝祭空間が描かれている。私は近い内に、阿南市のお松大権現に行くつもりだ。そこで遠藤ミチロウさんの分もお参りしてこようと思う。遠藤さんは、ライブでは激しい演奏を展開したが、ステージを降りると、穏やかに折り目正しい大人の配慮ができる人だった。思い出は尽きない。書き残したことは、いずれどこかにメモしておこう。

■つつしんで遠藤ミチロウさんのご冥福をお祈りします。(20190602脱稿)

